

EC

通信

Environment

Committee

Press

今年も八戸港で GM ナタネが発見

GM 自生ナタネ調査報告

生活クラブは、1997年1月に「遺伝子組み換え (GM:genetically modified) 作物・食品は取り扱わないことを基本とする」「やむを得ず使用する場合は、情報を公開して取り組む」と決定しました。そして、提携生産者と協力し、すべての消費材を見直し、遺伝子組み換え食品・飼料・添加物などを取り除くことと、どうしても使用しなくてはならない場合の独自表示を進めてきました。

その一方、輸入した GM セイヨウナタネは、運搬時などにこぼれ落ちて国内各地で自生しています。GM セイヨウナタネの花粉が風や虫によって広く飛散し、近縁 (アブラナ科) の在来なたね・カラシナや農産物などと交雑し、GM 遺伝子の汚染が広がるおそれがあるため、監視と対策が必要です。「遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン」の呼びかけで、全国の仲間とともに2005年から毎春、組合員が簡易検査キットを使って GM ナタネが自生していないか調査する活動を行なっています。青森では2006年からこの活動に参加しています。去年は私たちの合同調査活動で初めて、八戸港付近で*1ラウンドアップ耐性ナタネが見つかりました。

4月11日に行われたしゃべり場に参加された方にも声を掛け、9名が参加、県内14カ所で調査を行いました。その内八戸港付近で*2バスタ耐性ナタネが1検体見つかりました。八戸港付近の飼料工場はナタネを扱っていません。発見されたということは、トウモロコシ等が輸入される際、ゴマ粒ほどの大きさのナタネが混入され、風等で飛ばされ自生したことが考えられます。これからも調査活動を続けていきます。(報告:高村)

*1: モンサント社 (米国) のラウンドアップ (除草剤) に対して耐性を持つ。

*2: バイエル社 (独) のバスタ (除草剤) に対して耐性を持つ。



GMOフリーゾーン全国交流集会 in みやぎ 報告

3月5日(土)、仙台にて第11回 GMOフリーゾーン全国交流集会 in みやぎ「持続可能な豊かな地域を目指して」が開催されました。GMOフリーゾーン運動全国交流集会は、自分の農地や森などで「遺伝子組み換え作物は作らない」と「GMOフリーゾーン宣言」した農家と、それを応援する消費者・小売り・製造業など(サポーター)が年に一度集まり交流する集会です。



来賓挨拶された加美町町長

基調講演は風見正三氏(宮城大学事業構想学部副学長)「持続可能な地域創造と震災復興—社会的共通資本としての森の学校—」、特別報告は三浦隆弘氏(宮城のセリ生産者)「在来野菜鍋ムーブメントから、仙台のまちは何を学ぶか」がありました。

天笠啓佑氏(遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン)からは遺伝子組み換え作物・食品の最前線で何が起きているのか報告がありました。

- ①遺伝子組み換え作物の作物栽培面積が年々増加…2014年の栽培面積推移は1億8150万ha(日本の国土面積3780万ha、世界の農地は約15・16億ha)
- ②米国で遺伝子組み換えリンゴや鮭が承認…遺伝子組み換えリンゴとは皮をむいた際の起きる変色を防ぐ技術(塩水に漬けることを知らないのか?)。遺伝子組み換え鮭は2倍のスピードで成長する鮭。環境・食の安全への影響が懸念される。
- ③稲、小麦、ジャガイモの開発中…弘前大学がジャガイモのエピゲノム編集技術(接ぎ木)で

アクリルアミドの低減を開発中。

- ④「ゲノム編集」という新たな技術…遺伝子組み換え開発企業は米国のモンサント社の独占状態ですが、米国のデュポン社がこの技術の特許を取得し独占を狙っています。※ゲノム編集とは:遺伝子は切断すると修復する作用がある。そこにピンポイントで別の遺伝子を入れること。

など大変興味深い内容でした。科学者の知的好奇心と医療技術の向上のための開発、という意味では多少の理解を持ちますが、その技術を持つ固定の企業が世界の食糧を握ることには反発します。

GMOフリーゾーン運動は食と農を守る運動、くらしと地域の足元が大事だと話していたのが印象に残りました。

日本のGMOフリーゾーン(農地)は昨年と比較すると834.46ha増え、8万7167ha、うち青森県は43.86haでした。また、GMOフリーゾーンサポーターは全国で8,897名うち青森県は26名でした。

生活クラブ生協からは40名の参加があり、代表で岩手の活動の紹介がありました。2010年宮古市重茂で開催された協石連「シャボン玉フォーラム」を記念して植樹した森1haをGMOフリーゾーンとして登録。また、私たちがいつも食べている豆腐の原料大豆を契約栽培している「アグリ平泉」もフリーゾーン宣言しました。このようにGMOフリーゾーン活動している生産者の消費材を食べる続けることで、私たちもこの運動を支えていくことになるんだと思いました。

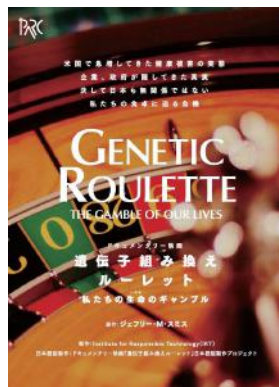


生活クラブ岩手
佐藤直子さん

私たちにもできる 遺伝子組み換え食品を避け 食卓から社会を変えること 知って、考え、行動しよう

GENETIC ROULETTE
THE GAMBLE OF OUR LIVES

ドキュメンタリー映画 原作、脚本、監督ジェフリー・M・スミス



4月 11 日(月)10 時より アピオ青森にて『遺伝子組み換えルーレット 私たちの生命のギャンブル』DVD 上映会 & しゃべり場を開催しました。毎年継続して実施しているGM ナタネ自生調査の事前学習会ということでもあります。

米国で起こっている遺伝子組み換え食品による健康被害や医学・医療関係者・政府の食品安全審査会に関わる研究者、自閉症やアレルギーに苦しむ子供の親たち、家畜の健康障害を扱った獣医など、多数の証言と科学的エビデンスからその実態を浮かび上がらせます。遺伝子組み換え作物を大量に輸入する日本も決して無関係ではありません。Chaputa:1.GMO とは？ 2.GMO と健康被害 3.家畜に何が起きている？ 4.子供があぶない 5.GMO の神話、科学への攻撃 6.インドと南アフリカで起きていること 7.さて、どうなる？

上映会終了後、お茶とスイーツをいただきながら 映画の感想や様々なお話を交換しあいました。そして、私たちの身近にせまるGM ナタネの脅威や菜の花の自生調査に参加して下さる方に調査キットの使い方を説明しました。

生活クラブには加入されていない方や初めての参加者もいてよかったとチームメンバーの声がありました。(報告:三上)

【せっけん de シンプル生活～石鹼の使い方学習会の報告】

3月 28 日(月) 県民福祉プラザで、石鹼の学習会を開催しました。参加者は子供 3 名を含む 7 名に、環境チームのメンバーが 6 名の計 13 名。今回は春休み中の開催だったので、子供も楽しめるバスボム作りとシャボン玉液作りにも挑戦しました。

重層とクエン酸を使ったバスボム作りはシリコン型やクッキー型で各自好きな形に作るもので、子供はもちろん大人も夢中になりました。

汚れた子供のスキーウェアの石鹼洗いも実演しました。みかんネットや洗顔用の泡だてネットに石鹼をこすりつけ、黒ずんだスキーウェアをゴシゴシこするとクリーニングに出さなくてもスッキリ綺麗になる体験ができました。

ブラックライトを使用した蛍光増白剤の実験にも、皆さん興味津々でした。まず、布巾を合成洗剤で洗い、水ですすぎます。次に、その布巾で豆腐を包みます。布巾を外した後の豆腐はどんな状態だと思いますか？ブラックライトが入っている大きな箱にその豆腐を入れてみると蛍光増白剤がどの位残っているのかが一目瞭然です。

少しでもご興味のわいた方は次回の石鹼の使い方学習会に足を運んでみてくださいね！

お茶とお菓子もご用意してお待ちしております♪

(報告 櫛引)



エコライフ(節電)キャンペーン報告



12月から始まったキャンペーンには21名(Web12名、紙9名)が参加しました。今回のキャンペーンは3か月間連続して電気の使用量を入力するため面倒という文字がちらついた方も多いのではないのでしょうか。参加した方の感想からこんなメリットもあったというのをご紹介します。

「自宅に届いた使用量のお知らせを見て書くだけだから思ったより面倒でないよ」「パソコンのエコライフ家計簿だと使用量がグラフで見られるから変化を確認できて面白い」「自分の使用量が多いと思っていたけど全国的には案外使用していないほうだったのにはびっくり！」

初めて参加した方は節電について考えてみる良い機会になったようですね。生活クラブは環境のためにも電気を減らす努力を続けてきました。これからは、減らすのみならず、消費材同様、『作って使う』もしていきます。

10月から“電気の共同購入”がスタートします。待ってくださいね♡

(報告：棟方)



わたしの雑感

先日、夫が次男の誕生祝いにTシャツを2枚買ってきてくれました。何気なく広げてみて爽やかな驚きがありました。一枚のロゴにあった**better a broken bone than a broken Spirit**のメッセージです。実は夫がTシャツを買ってきた日の前日に、あるイベントで出会った講師の関戸博樹さんが色違いの同じメッセージ入りのものを着ていたからです。そのイベントのタイトルは「青森市にプレーパークをみんなで作ろうよ講演会」。プレーパークという名前に馴染みがない方も多いでしょうが、これは子どもが大人の作った箱ものの中ではなく、制限禁止のない外の空間で自分の責任で、自由に遊ぶ場所のことをいうそうです。

関戸さんは東京の渋谷区で8年間プレーパークの常駐プレーリーダーをされていた方で、現在は子どもの遊び環境向上のため、様々な分野で活躍されているそうです。この講演会を企画したのは、組合員でもある4児のお母さん。東京でプレーパークや関戸さんとのご縁があり、ずっと温め続けてきた念願の企画がようやくこの日実現するに至ったのです。本当におめでとう！

講演は、私達の昔の遊びの振り返りから始まり、いまの子ども達の遊びやそれを取り巻く大人のかかり方など、2年間の主夫経験に基づいた具体的で前向きなお話ばかりで、とても貴重な1時間半になりました。

ここで心に残ったお話を一つ。関戸さんのお子さんがプレーパークで面識のないお子さんと遊んでいて物の取り合いになった時に、関戸さんは相手のお母さんがどこで見ているのか過剰に気にしてしまったというのです。子どもがいる方は誰でも同じ経験をされていますよね。そこで、関戸さんはプレーパークに向く度に、出会ったお母さん一人一人に会釈や挨拶をされて、仲間を増やし、先ほどのような事態が起きた時は第三者のお母さんに介入してもらって作戦を実行したというのです。関戸さんが考案した「ナナ

メの関係」、素敵ですよ。青森でもこんな光景が見られる日が来たら…とわくわくしている私です。

(田中君恵)